**平成28年度春季審判講習会報告書**

館林支部　坂本　雅美

堀越　春幸

　　眞田　正浩

　増田　泰丈

平成28年3月12日上毛新聞敷島野球場で開催されました群馬県野球連盟春季審判実技伝達講習会に参加致しましたので、講習内容の報告をするともに、支部審判員に伝達を

行います。

当日は、朝は雪や雨でしたが、グランド状態は問題なく、予定通り講習会を行う事が出来ました。

　Go-Sop-Call

　　審判の基本姿勢及び動作の反復練習

　　　止まって確実にプレイを見る為に走り方、足の運びかた、止まり方を意識し

　　　その上ではっきりとコールする事を心掛けて行った。

　　　セットにおいても、ハンズ・オン・ニーズ・セットポジションで頭を上げて

　　　目線をプレイにキープする事を想定し、膝を軽く曲げ、腰から背中はまっすぐに

　　　する事を意識する。

　　　また、前後左右への移動を行うGo-Stop-Callも行ったが、掛け声を聞いてから

　　　体を反応させる為の集中力を養うのには、よいトレーニングだと思う。

　　　この中で意識する事は、顔は意識して打球の方向を見る。その際も頭は

　　　動かさずに左足から踏み出す。

　　　アウトのコールは、セットポジションの姿勢から一連の動作で立ち上がりながら

　　　右ヒジを肩の高さまで上げ、右斜め前のドアをノックする様に叩き、コールする

　　　セーフのコールは、セットポジションの姿勢から一連の動作で立ち上がりながら

　　　両腕を体の前面の肩の高さ止める。その時に腕がクロスさせない様に注意する

　　　(視界を遮らない為)。その後にコールと共に両腕を水平に広げる。

　ストライクゾーンの確認と球審の姿勢

　　ストライクゾーンはベース上の空間で上位が普通に打撃を行う姿勢で

　　肩とベルトの中間点で、下位が投手側の膝の下に部分に投球が掠れば、ストライク。

　　外側の投球については、自分が思うよりストライクゾーンは広いので、しっかり

その感覚を意識する事。

　　そのゾーンとベース全体が良く見える位置でスロットポジションの姿勢を取る。

　　ストットポジションは、ホームプレートの内側にラインに自分の体の中心を置く

　　様にする事を意識する。

　　スロットフットとトレイルフットの位置をHeel・Toe・Heel・Toeに合わせる。

　　オン・ザ・ラバー/ゲットエット/コール/リラックスを一定のリズムで行える様、

　　意識する。リラックスする時はトレイルフットを先に下げる事で、次の姿勢でも

　　軸がぶれる事なく、同じ位置に入る事が出来る。

　　　タイミングは投手が投球動作を開始したら、ゲットセットの姿勢をつくる。

投球を開始したら、立ち遅れない様に投手の自由な足が地面についた時は姿勢を

整える。

トラッキング

 　五人一組で球審が投球を目だけで追う確認動作を行う。

　　トラッキングのポイントとして下記を再確認しました。

　　投手が投げたボールを捕手が捕るまで、顔を動かさずに目だけで追う。

　　捕手のミットを見たままで、ボールの軌跡をイメージしてコールする。

　　捕手のミットを見たままにするのは、落球や妨害を確認出来る様にする為、

　　このトラッキングを見につける事で一定のタイミングで安定したジャッジを

　　行う事が出来る様になる。

　　必ず、一名がゲットセットの姿勢、ボールを追う目の動き、コールの姿勢などを

　　確認し、指摘を自分自身の言葉で行う事で、自分自身で気がつかない点など

理解を深める事が、より出来たと思う。

投球判定

　スロットポジションでベース全体が見える位置での球審の構えを意識し、投球を

目で追うトラックングを行い、コール姿勢、タイミングを意識して行った。

打者もバッターボックスに立ちましたので、打者の構え等で投手が見えにくくなるが、

顔の位置を調整したりすることで、投手が見える様になるので、自分なりに、投手が

見えやすい構えを見つける事。

ストライクのコールはキレを意思し、ヒジを顔の高さまで上げてからコールとともに

ヒジを基点トとしてドアを強くノックする様に叩くき、コールも’ストライクワン’と伸ばさずに発声する。

一塁でのビュートレーニング

三塁からの送球で一塁フォースプレイを想定し、受講者は横に4人並び、ジャッジを

行なう。送球が野手の手を離れた時にベースに焦点をあわせ、プレイを待ち受ける

講習。セットポジションを取って一塁ベースに焦点をあわせるが、視界に走者と

野手が入っている事がポイント。

見る位置でセーフ・アウトが異なるので、ポジショニングを確認するための講習でも

あるが、判定が異なった場合でも、アウト・セーフのコールが同じになる事はなく、

アウトの方が一呼吸遅くなる事を意識する。

一塁審判フォースプレイについて

　　一塁ベースのフォースプレイ判定の練習を行う。

　　しっかり、角度を取って、バッターランナーの触塁と野手の捕球、触塁の

　　タイミングを見極め、しっかりと判定する。

走者一塁時の二塁のポジショニング、盗塁時の入り方

一塁ベース、二塁ベースでフォースプレイ判定の練習を行う。

　　しっかり、角度を取って、バッターランナーの触塁と野手の捕球、触塁の

　　タイミングを見極め、しっかりと判定する。

　 また、ダブルプレイ時の二塁審判は、スタンディングポジションで二塁ベースに

正対し、判定を行う。打球が向かってきた場合、ボールをかわす際に、野手の視界を

遮らないため、打球の避け方に注意する。

今回、講習という事もあり、二塁審判はセカンド寄り、ショート寄りに立ったが

ショートからの送球のリスクを考えて、セカンド寄りに立つことを推奨する。

二塁での盗塁判定については、盗塁が確定したら、二塁ベース側の足を一歩引き、

その足を軸足にして回転し、プレイに備える２ステップを意識する。

ジャッジは、野手の捕球、タッグを確認してから、慌てずにコールする。

投球動作、ボークの説明

　　セットポジション、ワインドアップポジションの動作の説明で、今年は投球に

ついてはルール改正は無い為、投手の基本動作について説明を受ける

再度の確認であったが、牽制時に一挙動であれば、軸足が回転時に動いても

正規の牽制となる。

本塁周辺のプレイの説明

　ルールブックにコリジョンプレイに関する条項が追加されたが、アマチュア内規で

 2013年に防具等で走者の走路を塞ぐ行為は禁止になっている為、アマチュア野球に

　おいては連年通りで変更なし。

　ボールを持たない捕手は走路を塞ぐ行為は不可で、その様な状況においては、審判が

　声で走路を開ける様に伝える。

　プレイの中で走路に入る場合や、アウトのタイミングで走路の入るのはＯＫ。

球審のホームでの判定

　アマチュア内規で定義されていた為、コリジョンプレイについては変更がないが、

　ルールブックに記載された為、本塁のタッチプレイについてはスィープタッチが

　多くなると思われるので、タッチが見える位置を意識して、ベストポジションを

　見つける。（第三の位置から、やや一塁寄りが良い）

反則投球、守備妨害等の球審のコール

　反則投球時のコール仕方、本部へのカウントの伝え方と盗塁時に打者の妨害が

発生した際のコールと処置について講習を受けた。

　コールを行うときは大きな声でしっかり投手に伝え、ランナーについても、大きな声で

　投球時のベースに戻す事を意識する

ランナー3塁で球審、３塁審が入り、3塁線上の打球判定、ランダンプレイの判定

　野手のライン際の打球については、球審は一歩で三本線延長線上に立ち、最初にフェア・

ファールのコールを行う。

ランダウンプレイにおいては、追わず、離れずして、プレイを見る。最後にタッグに

　行く時に一歩でも二歩でも野手に近づいて、プレイを確認し、大きく判定をくだす。

　その場合でも、ラインアウト、インターフェア、オブストラクションも発生する

場合もあるので、迅速に判定し、大きなジェスチャーで他の審判、選手に伝達する

事を意識する。

4人一組でのキャンプゲーム

　事前の打合せをしっかり行い、プレイに対しては、クルーの動きをしっかりみて、

行動する事を意識する。

勉強会報告

野球規則の条文構成が大幅に改められる

　　2015年版までの目次　　　　　　　　　　　　2016年版の目次
1.00　試合の目的、競技場、用具　　　　　　　1.00　試合の目的
2.00　本規則における用語の定義　　　　　　　2.00　競技場
3.00　試合の準備　　　　　　　　　　　　　　3.00　用具・ユニフォーム
4.00　試合の開始と終了　　　　　　　　　　　4.00　試合の準備
5.00　ボールインプレイとボールデッド　　　　5.00　試合の進行
6.00　打者　　　　　　　　　　　　　　　　　6.00　反則行為
7.00　走者　　　　　　　　　　　　　　　　　7.00　試合の終了
8.00　投手　　　　　　　　　　　　　　　　　8.00　審判員
9.00　審判員　　　　　　　　　　　　　　　　9.00　記録に関する規則
10.00　記録に関する規則　　　　　　　　　 　本規則における用語の定義

今回の改正によって、通常のプレイ（打者が走者になる、打者や走者がアウトになる、

投手が投球する…）は5章に、違反行為（妨害行為やボークなど）は6章に

纏められている。

その他の主な変更点については下記になる。

グローブの長さの規定が変更になったが、店舗等で購入出来る物は問題ない。

捕手が投球を受ける時はヘルメット、マスクも着用する。ブルペンも同様。

チームによっては、控え選手のキャッチャー道具が準備出来ていない場合も

あるので、立って受ける様に指導する。

投球当時の解釈が、昨年度の通達期間を経て2016年度より、オンザラバーから、

投球動作開始に変更された。

本塁での衝突プレイの追加が追加されたが、2013年のアマチュア内規で本件は

規定が出来ていた為、取扱いは従来通りだが、捕手がボールを確保せずに

立つ位置に関して軟式野球で方針が出ています。

ボールを持たない捕手は走路に立つことは禁止されている。禁止されている部分は、

高校野球内規に記載されているベース半分になるが、今後、ベースパスと

　　呼ばれる部分(ベースの横幅で三塁線に並行する幅)が、そのエリアになる。

軟式野球においては、走者は本塁を駆け抜ける権利があるので、ベースパスは空ける。

　　群馬県は、今後、ベースパスをあける事を指導していく。

　　また、ボールを保持した捕手に走者が触塁を怠って、当りに行く事は許されない。

　

ベースパス

この部分にボールを

保持しない捕手は立てない

　　　高野連内規に記載　　　　　　　　　　　　　　ベースパス

2016年アマチュア野球内規について

バッタスボックスルールの追加

　打者は打撃姿勢をとった後は、アマチュア内規に記載されている場合を除き、

　少なくとも一方の足をバッターボックス内に置いていなければならない。

　審判員は前の打者が塁にでるかまたはアウトになれば、速やかにバッターボックスに

入る様に次打者に促せなければならない。

打者が意図的にバッタースボックスを離れてプレイを遅らす場合は警告を与え、

3度目からは投球を待たずにストライクを宣告する。この場合はボールデッドになる。

また、本件は2016年度を啓蒙期間とし、2017年度から実施する。

2016年競技者必携改正について

　競技運営に関する事項

　　次の試合のバッティーは攻守決定後、競技場内のブルペンを利用する事が出来る。

　　前年までは、試合前のシートノックが無い場合のみ、ブルペンを利用出来たが、

　　シートノックの有無に係わらず、ブルペンの利用が出来る様になった。

　　試合に時間制限が設けられましたが、後攻のチームがリードしている状況で

　　制限時間になった場合は、その時の打者の攻撃が終了した時点で終了し、

その記録までを有効にする。

打者の頭部にヒットバイピツチを受けた時は、審判は攻撃側の監督と協議し、

臨時代走を送る事が出来る。

全軟連において使用するサングラスは本部での確認ではなく、試合前の用具点検で

確認する。（高野連については従来通り、攻守を決める際に確認する）

総括

実技講習会においては、Go-Stop-Call、球審の構え、フォースプレイの

位置取り、フォーメーションにおいても、廻りのクルーを見てはっきりと動く事なで

全てにおいて基本になるべきことを学んだ。本塁のプレイにおいては、アマチュアは

変更はないが、コリジョンプレイを意識したプレイも増えると思うので、講習会で

教授を受けたスィープタッチに対応出来る位置取りを意識する事とプレイにおいても

捕手にベースパスを空ける事を意識させる様、活動していく。

座学においても、学んだ事を支部の連盟役員、審判に伝え、円滑な大会運営を

行える様にしていく

以上